

## 網浜廃寺(操山201号遺跡)

水川 慶紀

### 【遺跡の位置】



S = 1/5,000(岡山全県統合型 GIS より)

### 【遺跡の概要】

網浜廃寺は、岡山市埋蔵文化財センターから約100m北東に位置する古代寺院である。現在、当地は社会福祉法人弘徳学園の施設が建っている。発掘調査は実施されておらず、伽藍配置や堂塔について不明な点が多い。このため、網浜廃寺は、謎の古代寺院といえる。とはいえ、弘徳学園の建設に伴い、一部遺構や遺物が確認されている。今回は、数少ないデータから網浜廃寺について紹介する。既出の報告等で明らかになっていることを下記に記す。

<遺構>遺構は、宅地崖断面で確認され、基壇と溝などが確認されているが、基壇の詳細は不明(市1971)。

○礎石が確認されており、堂塔の存在が想定できる(市1971)。

<遺物>○瓦が大量に出土しており、瓦の種類は、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・文字瓦がある(玉井1941)。

網浜廃寺は、特に軒瓦から年代観が推定されている。軒瓦は、軒丸瓦・軒平瓦とも2種類確認でき、文様形態と胎土・色調が異なる。灰色を呈する瓦の群は、軒瓦1類で、単弁十二葉蓮華文軒丸瓦(軒丸1類)と均整唐草文軒平瓦(軒平1類)からなる。均整唐草文軒平瓦は、いわゆる平城宮6663型式系の瓦で8世紀末(奈良時代末頃)に比定できる。一方、茶褐色を呈する軒瓦2類は、単弁八葉蓮華文軒丸瓦(軒丸2類)・均整唐草文軒平瓦(軒平2類)とも特異な文様形態を示し、研究者によって年代観が分かれる。研究者による年代観の幅は、8世紀前半(奈良時代前半)から12世紀程度(平安時代末)まで広いものとなっている。軒丸瓦は、単弁で外区に鋸歯文を配する点から一見、古相を示す。しかし、同じ特徴をもつ軒丸瓦や軒平瓦が、倉敷市黒土窯跡や総社市秦原廃寺で見つかっており、窯年代から8世紀後半以降のものと考えられる。軒平瓦の形態等も併せて検討すると9世紀初頭頃(平安時代初頭)と推定される(草原2017)。

これらのことから、網浜廃寺は、出土瓦類から検討すると、奈良時代末頃に創建され、平安時代初頭に寺院の補修または改変があったと想定できる。網浜廃寺の南西に位置する上生院に伝わる『上生院由緒』によれば、上生院は、網浜の備前国分寺の末寺が、報恩大師に中興されるなどの経緯で現在に残ると記されており、網浜廃寺との関連が想定できる。これを裏付けるように、上生院には、市指定文化財の平安時代前期の観音菩薩坐像が現在まで伝わっている。

【文献】岡山市教育委員会1971『賞田廃寺』/岡山市教育委員会2002『新道遺跡』

岡山市史編集委員会1962『岡山市史(古代編)』岡山市役所

草原孝典2017「備前国西半の古代山陽道のルート変更について」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第9号,岡山市教育委員会

玉井伊三郎1942『吉備古瓦圖譜』第貳輯 吉備考古會圖譜刊行所

「上生院由緒」

(岡山市史編集委員会 1962)

当寺は天平十年八月国守より赤阪郡高月村国分寺ノ令シテ、上道郡宇治郷網干ノ浦義冢山ノ麓ニ一字ノ寺ヲ創建セシメ義冢院ト号シ国分寺ノ末寺トナシ国守任国ノ中ニ卒去アリシヲ義冢山ニ葬リ当院ヲシテ事務ヲ司ラシム其後当院破滅ナリシニ天平勝宝元年報恩大師東備国内四十八ヶ寺創建センガ為ニ靈地ヲ撰ント國中ヲ回歴スルノ時則此網干浦ニ来リテ当院ノ寺跡ヲ感シテ再興アリシバラク当院ニ休フト云々はレヨリ年霜過テ応永二年春当院住職権大僧都法印正舜復興トス康正二年六月中浣当院造営大イニナル又真寛及寿覚等ノ代ニ山門仁王堂ヲ創立スト云

(以下略)

※年号の整理

天平十年 ↓ 七三八年

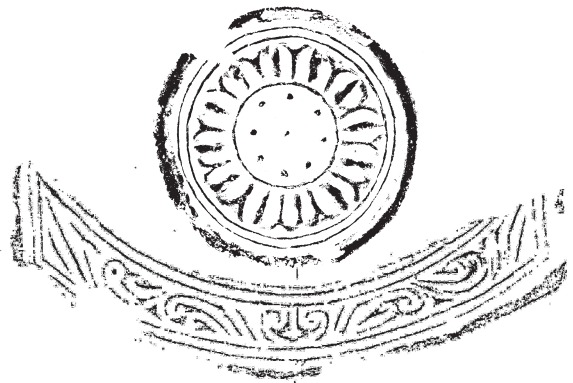
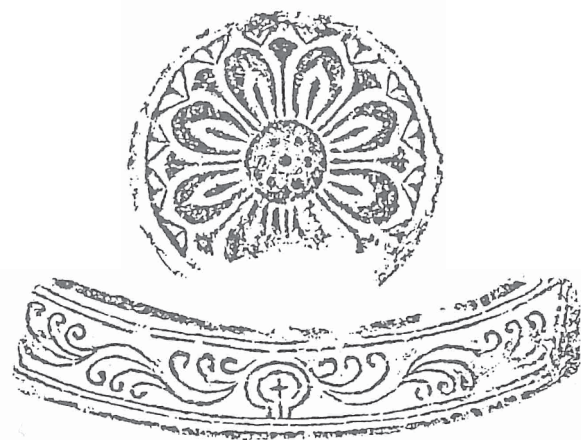
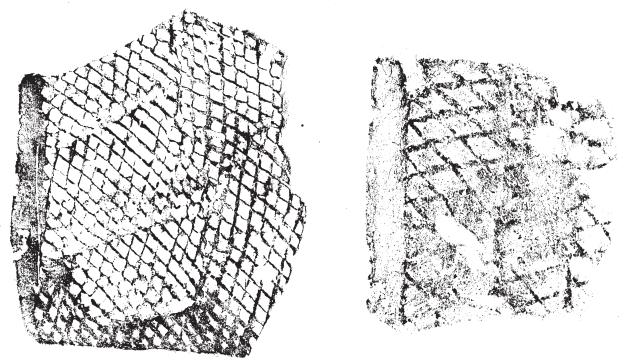

天平勝宝元年 ↓ 七四九年

応永二年 ↓ 一三九五年

康正二年 ↓ 一四五六年

国分寺建立の詔

天平十三年 ↓ 七四一年

軒瓦1類	
軒瓦2類	
<p data-bbox="191 1568 399 1601">&lt;平瓦 叩き文様&gt;</p>  <p data-bbox="1013 1568 1340 1601">&lt;線刻瓦&gt; (玉井 1942 より)</p>  <p data-bbox="1364 1713 1396 1937">「……父母……」</p>	

網浜廃寺出土遺物